

城南塾

6月27日 坂東 正章 氏

六月二十七日(水)午後に一〜三年生徒全員・参加希望の保護者・教職員など約一千人を対象として、徳島城南塾SSH(スーパーサイエンスハイスクール)特別講演会を実施しました。講師として、本校OBで地元で開業医として活躍されている坂東ハートクリニック院長の坂東正章先生をお招きし、「六十五年の人生で、気づいたこと」と題したご講演をいただきました。

はじめに、当時の校舎やファイヤーストームの思い出、野球部での活動、また授業で恩師に「人生如何に生くべきか」と問われたことがその後の人生の指針になったことを話されました。

大学では、医学部5年生のときに正当な耳鼻科教授選を求めて5年生全員がストライキに突入し、要請のもとスト実行委員長に就任しました。その結果、学部長と渡り合うことになり、別の心臓血管外科の道に進むことになったそうです。そのような経験から「行き詰まったと思っても周囲を見

渡せば別のものが見える」と話されました。大学卒業後は、ヒューストンで心臓血管外科医として活躍されました。心臓バイパス手術など医療に携わった経験、海外での医療や生活で気づかされたことを語られました。



帰国後は病院に勤められていましたが、近隣の病院に紹介した方が脳梗塞で亡くなられ、その方の遺族の思いから、坂東ハートクリニックの開業に至ったそうです。

最後に「人生如何に生くべきか」を考へ自己を確立する」「行き詰まったと思っても面を上げて周りを見てみよう!」「人種差別は愚劣、先入観を持たず多様性を求めよう!」「既成事実への屈服」「権限への逃避」に気を付けよう!」「いのちを大切に、大切に:」と生徒にメッセージをいただきました。

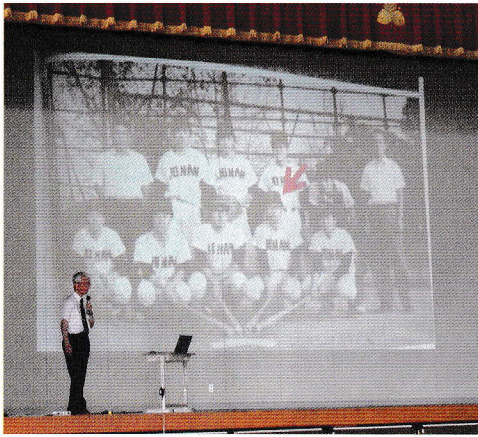
城南塾く生徒感想文く

一年 橋本 幸奈

今日初めて城南塾に参加しました。講師の先生が自分達の大先輩であると聞いていたので、講演を聞く前から親近感を抱いていました。そして、約一時間の講演会を聞き、印象に残ったことがいくつもあります。

まず、坂東先生の城南高校時代のお話の中で、桂先生という方がおっしゃったという「人生如何に生くべきか」という言葉が

印象に残りました。最初にこの言葉を聞いたとき、自分の中ですぐに答えが思い浮かびませんでした。将来の夢が未定で、どのような人生を歩んでいくのか、想像もできない私にとって、難しい問だと感じました。しかし、その答えは、これからの人生を歩んでいく中で見つけるものだということを知り、同時に、たとえ途中で行き詰まっても周りを見渡せば、別のものが見えてくることも坂東先生のお話の中で知ることができました。



次に印象に残ったのは「今、命があなたを生きている」という言葉です。坂東先生がおっしゃった通り、命は一人一人にとつてかけがえのないものです。両親からもらった命を大切にすることが大事だと改めて思いました。自分が自分を大切にすることで、他人を大切にすることにも繋がるのではないかと思います。「得がたい人生、限りある人生。私らしく、生き生き楽しく」毎日を過ごせるようにするため、先入観にとらわれず、多様性を身につけたいと思います。また、城南高校の校訓である自主・自立を大人になっても大切にしたりすることを心掛けたいと思います。私が、年をとっても「一生あばばい」と言えるような人生を歩んでいきたいと思いました。

二年 吉岡みやび

私は将来、心臓などの病気について研究したいと思っています。そのため、今回の城南塾の講師である坂東先生の体験に基づくお話に大変興味を持ちました。心臓の病気やその手術の方法など、今まで詳しく知ることができなかったことを知ることができて本当に良かったです。また、病気の

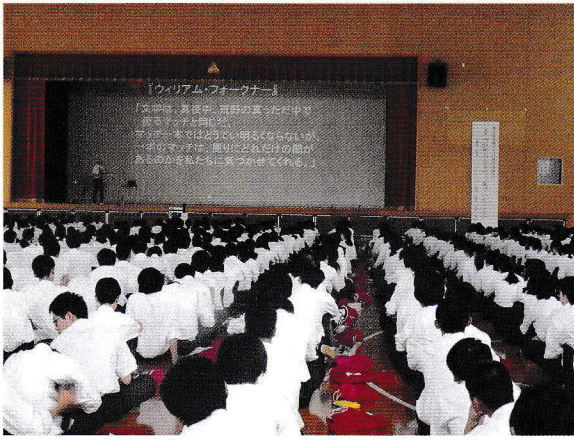
発見が遅くて助けられなかった人や、治療法がなくて助けられなかった人のことを聞き、将来病気について研究したいという気持ちがいよいよ強くなりました。

坂東先生のお話で一番印象に残っている言葉は、「マッチは一本では明るくならないけれど、自分の周囲にどれだけ闇があるのかがわかる。」ということ です。本当にその通りだと思います。私は読書が好きで、今までにたくさん本を読んできたつもりです。しかし、それでも全く知らない知識が身の周りには溢れています。そのため、今まで読んできた本から私が得た知識なんてほんのわずかなものに過ぎないと改めて気づかされました。

講演のまとめとして「既成事実への屈服」「権限への逃避」という言葉がありました。これは自分にもよくあることだと思います。私も、今までに意識せずにそれらのことをしてきたのだと考えてみると、自分は考えているようで様々なものに流されて生きてきたなと思いました。決まったことだから、自分には権限がないからと、言い訳をせずに自分の意見をしっかりと持って、それを行動に移せるようにし

ていきたいと思いました。

今回の講演でお話をさせていただいた「六十五年の人生で気づいたこと」は全て自分にとって意味のある内容ばかりでした。今回の先生のお話を、胸にとどめ自分の人生も「如何に生きべきか」考えながら生きていきたいと思いました。本日は、お忙しい中、本場にありがとうございました。



三年 満壽 利毅

「人生如何に生きべきか」、それは私にとって大きな課題となるだろう。どれだけ本を読もうと、どれだけ知識を得ようと、それだけでは決して辿り着くことや、近づきことのできない領域。そこへ達するためには考え生きなければならぬと感じた。

アメリカと日本の小児科病院での児童への配慮の違いには驚かされた。三十年前にアメリカができたことが、今日の日本ができていない。この差は「資金力」ではなく、「工夫する心」から生まれるという坂東先生の考え方は正しいと思った。この話を伺い、今まで私は、夢の実現には資金が不可欠だと考えていたが、工夫することができれば少しの資金で最大の効果を発揮することができるとは思えないか思えるようになった。

理想の「食」と「農」を追求することが私の人生目標である。先生が語った「既成事実への屈服」と「権限への逃避」はこれらを求める上でも、きつと壁になるだろう。今日の食品の多くが加工され、様々な科学物質が加えられたり、輸入されたりしたもので、それらは未来の世代の健康を害

する要因となると一部では懸念されている。特に国内で栽培される野菜への農薬規制は緩く、健康被害がでてもおかしくない。ヨーロッパでは早くから危険性が問われ、農薬の規制は大変厳しいものである。しかし、現在の農林水産省が定める基準値はヨーロッパ以上の値を示しているのが現実だ。神経毒であるネオニコチノイド系農薬などの規制が緩いために、日本の農薬は利益を求められる限り使用を続ける。そして、それが後に私達の健康を害したとしても農家は責任を感じなければ、農林水産省はそのことから逃れようとするだろう。

この先の未来、私にできることは何か、真剣に考え、人生を懸命に生きたいと思う。

